

補助法一、日常の事物を用途以外にて定義せしむ。

六歳児第二の膳、椅子、火鉢、馬、母の五問。

用途以外の定義とは例へば「お膳は食事に用ふ用具である」とか「お膳は道具です」等の類である。

○十歳児

第一、切れぐに排列されてゐる語句から文章を組立て、その意味の正誤判断。

左の如きカードを渡し、判断の結果正誤の下に横線を引かしむ。

例	日は	出ます	西から	正誤
1	十二月	一年は	です	正誤
2	浮きます	水に	波は	正誤
3	木で	みんな	できてみます	正誤
4	音を	大砲は	大きな	正誤
5	ペンと	属われます	字を	正誤
			イソキ	書くに

時間は五分間、五問共正解を要する。

第二、絵の解釋

六歳児第一の絵による。

- (一)「線香を持つてゐます。」は叙述だが「お墓参りをしてゐます」は解釋である。
- (二)「女の子はお茶碗を持つてゐます」は叙述で「母が看護してゐる」は解釋になる。従つて
- (三)「鼻緒の切れてゐるのをすけてやつてゐる。」
- (四)「友達が誘ひに来て學校へ行くところ」といふやうに解釋せしむるのである。全部の正答を要する。

第三、四個の数字を逆に反復せしむ。

「今私がいふのを聞いてゐて逆にいつて下さい。」

「四、六、二、一」。同様に「三、九、七、五」「七、五、三、〇」。

三回中二回正答すれば合格。

第四、四種の問答。

(一) 今日は日曜日です。花子さんはいつも日曜の午後はお友達と遊ぶか、赤ん坊のお守をするか、ひとりでお本をよみます。今日の午後お花さんの家へはお友達も来ないし、本も読んでません。花子さんは何をして居るのでせう。

(二) つぎのはなしで高い空はどんなだとおもひますか。

イ、飛行機のりが高く飛ぶ時には夏でも外套を着る。

ロ、富士山にのほると夏でも氷がはつたところがある。

(三) 道のわきに十本の松がうゑてある。松と松との間に二本づつ櫻をうゑるには幾本の櫻があればよいか。

(四) 三人の子供が一行にならんでゐる。太郎は次郎の左に居る。三郎は太郎の左に居る。どの子供がまん中に居るか。

右の問題を讀ませて口答させる。

(一)は「お守りをして居る」(二)は「高い空は寒い」(三)は「十八本」(四)は「太郎」が正答。四問中の二問以上が合格。

第五、三語を與へて二分間に一句又は二句の文章を綴らしむ。

「川・花・子供。今この三語を使つて一つの文章を作つて下さい。」と命ずる問題の意味が解らぬ時は他の引例を試みるも差支なし。「子供が川の岸にある花を見てゐます」は一句文「川の岸に花が咲いてゐて子供がそれを見てゐます」の如きは二句文、兩方とも可。一句又は二句文でも不合理ならば不可。又、三語を別々に使用した三句文を綴れるはとらず。

第六、芝生に失くした球さがし。



一 上圖を示し、「この圖の中は板圍のある廣い芝生とします。あなたの球が今この圍の中へ飛込みました。この中に這入つたことは分るがどこにあるか分りません。それで下の入口から入つて探すのですがどんな風に歩いて探したらよいか鉛筆であなたの歩く道を書いて下さい」と命ずる。これには無計畫のものと計畫あるものとに分れ、又計畫あるものにも更に上中の三階段の區別がある。この三種の計畫例については、兒童研究所紀要第三卷三〇三及三〇四頁参照。十歳兒としては上と中との計畫を合格とす。

補助法一、二種の文を読み聞かせその不合理の點を指摘せしむ。

(一) 私が買物に下町にゆくには坂を下りて行きますが歸りにもやはりその坂を下りて歸つて來ます。

(二) 機關士がいふにはもつと列車の數をふやすと汽車はもつと早く走ります。

二問とも正答せば合格、「今私が文を読みます。その中におかしい所があるから、どこであるかいつて下さい」といつて、明瞭に読み上げて、指摘せしめる。

不合理の點を特に強調して讀んではならぬ。

○十一歳兒

第一、次の短文を再生せしむ。

「昨夜九時半ごろ淺草に火事があつた。一時間ばかりで消えたが、十七けんやけてしまつた。よくねむつてゐた女の子をすくひ出すために、一人の消防夫が手足にやけどをした」この短文を書寫又は印刷したものを渡して一同音讀せしめ、(再生せしむることを豫め注意して置く)讀んだあとで再生せしむ。これは十五單位から成立してゐるが、八單位以上の再生は合格とする。

格とする。

第二、十歳兒、第四の推理問題四問中三問の正答が合格。

第三、二個の圖形の記憶による描圖。

上の二個の圖形を十秒間見せて後記憶によりて描かしむ。

その一は完全に、他の一は半成までが合格。

成績評價についての具體的の實例は兒童研究所紀要第一卷四四頁第

十三圖及四五頁第十四圖参照のこと。

第四、二個の物體を記憶によつて比較せしめ類似點の指摘。

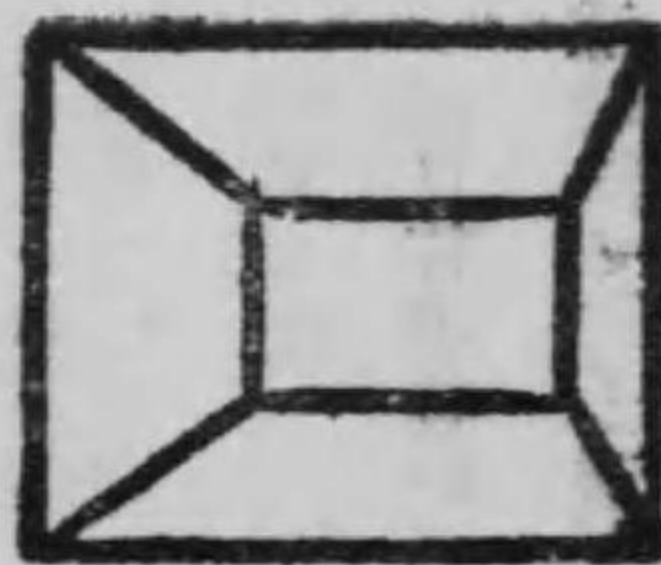
木と石炭、林檎と梨子、鐵と銀、の三問。

(一)「どちらも燃える」「どちらも植物質」「共に堅い」

(二)「どちらも圓い」「食べられる」「共に果物」

(三)「共に金屬」「共に地から掘る」「共に重い」「器に出来る」等は

みな正答とする。各問について一つの類似點を挙げ得ば可。



第五、三問中二問の正答を以て合格とする。

七歳児第五の幾何學的圖形の分割、五分間以内に全部の正答を要す。

第六、次の類推法を行はしむ。

例	船——船長……………	學校——校長……………
1	東——西……………	南——北……………
2	君——忠……………	親——子……………
3	兄——弟……………	弟——兄……………
4	夏——ちつひ……………	冬——雪……………
5	マッパ——マップ……………	筆——墨……………
6	村——村長……………	市——市長……………
7	陸——汽車……………	海——船……………
8	日本——東京……………	イギリス——ロンドン……………

口答筆答いづれにても可。二分間に四問以上の正答が合格、

補助法一、十歳児第六の球さがしの計畫の上を合格とす。

補助法二、四歳児第五木型盤を眼を閉ぢて四分以内に全部嵌込めば合格。

○十二歳児

第一、三個の抽象名詞の定義。

慈善、公益、廉潔について定義せしむ。

問題の提出法は口頭又は文字による三問中二問の正答が合格。

慈善には不幸なる人及之に施す善事の二觀念。

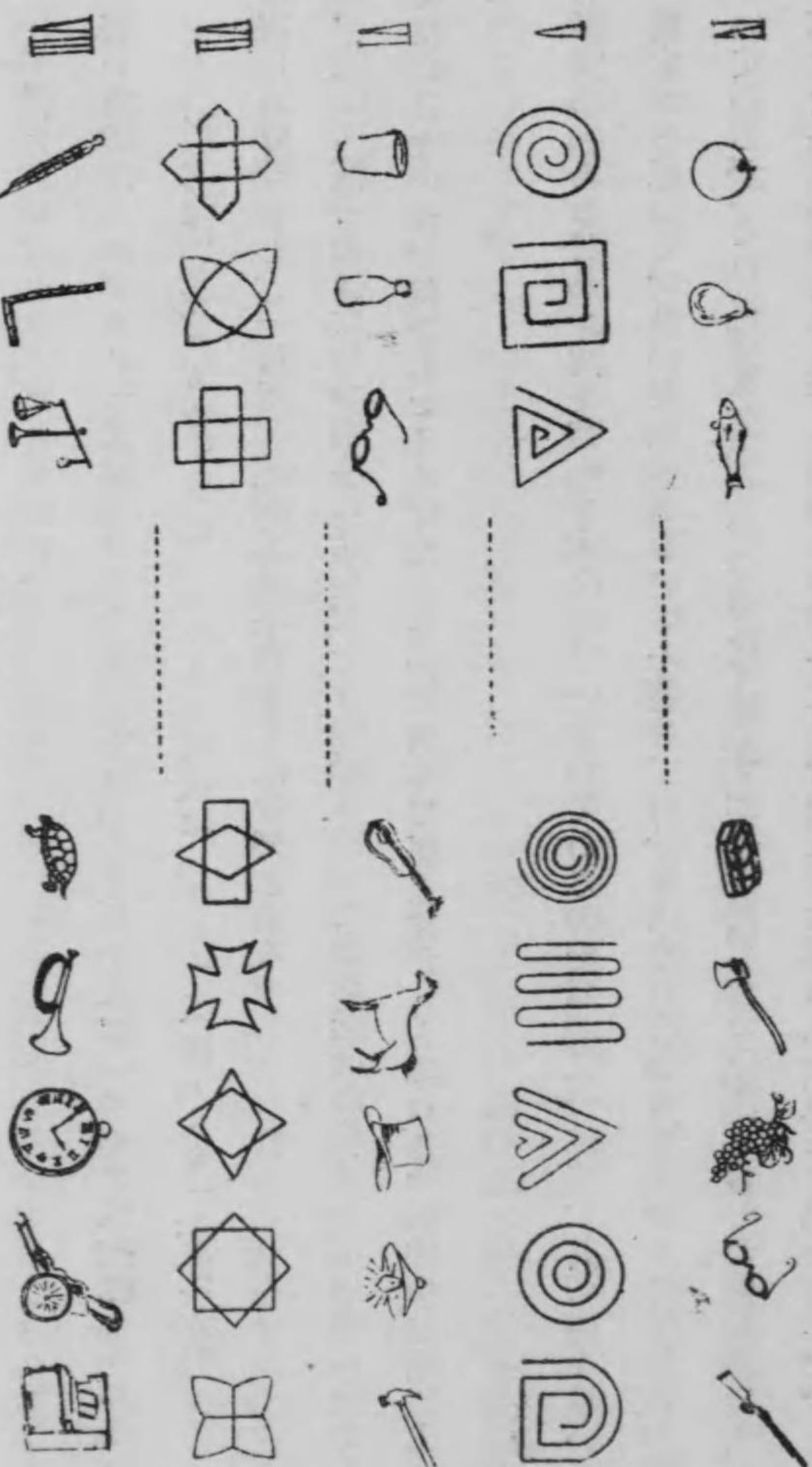
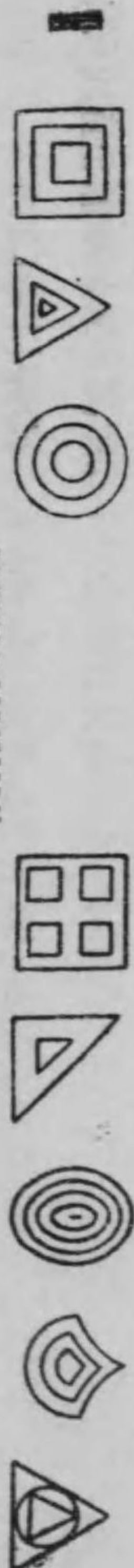
公益には社會、及び有益の二觀念。

廉潔には利慾に惑はぬこと及道ならぬものをとらぬことの二觀念が各含まれてゐることを必要とする。

第二 圖について共通要素の指摘

別紙の圖を使用して左方の三圖に共通せる要素を見出し、それを右方の五圖の中から指摘し、その下に横線を引かしむ。題意をよく理解せしむることが必要である。而して後その答に對して口頭で理由を尋ねる。

時限五分間、八問中五問以上の正答が合格。



第三、短文の空所を填充せしむ。

短文、ジユクサナイ□□□□ナタベタリ、サムイノニオソクマデ□□□アソングリ、ウチニ
 バカリキテ、ノベツニ□□□□ナタベタリスルト、□□□□チヤスンデ、オイシヤニ□
 □ナケレバナラナクナリマス。

第一空所は「クダモノ」又は「ウメナド」、次は「ソトデ」又は「オキテ」、次は「クソシ」
 「オカシ」、次は「ガクカウ」又は「オケイコ」、次は「ユカ」又は「ミセ」答が正答。

時限は五分間とし、一箇所の誤謬又は不能までは合格とする。

第四、次の四種のおはなしを順序に話し、一々の終りに「このお話はわれ／＼に何を（何を）
 とはいけないか、何をしなければならぬか）訓へて居ますか」と尋ねる、四問中三問以上の
 正解を合格とす。

お話(一)「ある日鳥が肉を啣へて木の枝にとまつてゐるのを狐が見つけて、其の肉を欺いて
 取らうと思つて、鳥の羽毛の美しいのを褒め、自分はあなたの聲も羽のやうに美しいと聞
 いてゐるが、それは眞實か否か一つ聞いて聞かして下さいませんか」と言つた處が鳥は大層
 喜んで一聲鳴きました。その時口を開いたので肉は下に落ち狐は直にそれを食べた。

(二)運送屋が荷馬車を引いて田舎道を行つた處が不意に車がぬかるみの處にはまり込んだ。

その男は何もしないで車を眺め、大聲をあけて力の神様に助けを求めた。神様は直ぐにお
 出でになつたが其の男を御覽になつて「自分で先づ車の處に肩をあてて押上げ、同時に馬
 に鞭を加へて見たらどうだ。」とおつしやつて行つて仕舞はれた。

(三)鳥が麥畑を荒して困るので百姓が良をかけて鳥を捕つて居た。處がある朝一度も畑を荒
 したことはない鳥が良にかかつた。百姓は之を捕へて殺さうとした處が、その鳥は百姓に
 向つて「私は他のいたづらな鳥とは異つて一度も麥畑を荒したことはないから釋して下さい
 い」と願つた。しかし百姓は「私は悪戯鳥と一緒に前を捕へたのだからお前も悪戯鳥と
 一緒に殺すよ」と答へた。

(四)百姓の父子が一匹の驢馬を賣らうと思つて二人とも歩いて町へやつて來た。やがて一人
 の子供に逢つたが、その子供は「間拔けな人達だな、一人は驢馬に乗つて行けるのに」と
 言つた。父はそれを聞いて子供を乗せて自分は歩いて行つた。やがて又二三人連の男に逢
 つた。一人の男が他の男に向つて「御覽、情け息子が年取つた親を歩かして居る」と言つ

た。これを聞いて今度は息子を歩かせて父が乗った。少し行くと又婦人の群に逢った。無慈悲な親だ、自分ばかり樂さうに乗つてゐて、子供はやつと馬の側を歩いてゐる」と話してゐるので、今度は父子二人で驢馬に乗つて行つた。やがて町の入口に來た處が町の人が見て「動物を虐待する奴だな、小さい馬に二人乗るよりは二人で馬を擔いで行つた方がよい」と言つた。それも尤だと思ひ、二人は驢馬の四足を棒に縛りつけて行つた。所が橋を渡らうとした時に、驢馬は驚いてはねたので、川の中に落ち込んで死んで仕舞つた。それで百姓は折角お金にしやうと思つたけれども何にもならなくなつた。

(一)の答には「自慢してはいけない」とか「人を欺してはいけない」といふであらうが、寓話の趣旨に基き前者が満點後者が半點。

(二)の答には「他人の力をあてにしてはいけない」又は「出来るだけ自分でやつてみる」等が正答。

(三)の答には「悪い友と遊んではいけない」、「悪い處へは友達と一所に行かぬやうにする」等が正答。「罪のないものを殺すのは悪い」等は半點。

(四)の答には「人の言葉にばかり従つてはならぬ」又は「自分がよいと決心したなら何處までもやり遂げる」等は正答。

第五、不合理な繪について誤謬の指摘。

方法は八歳兒の第六に同じ。

別紙附録の六種の繪について。

(1)は望遠鏡の見方。(2)は旗のなびく方向と煙突の煙の靡く方向の相違。(3)遠景視。

(4)は噴水の高さ。(5)尺度の五寸と六寸の所が長過ぎる。(6)は一方の積木の陰影が短か過ぎる。

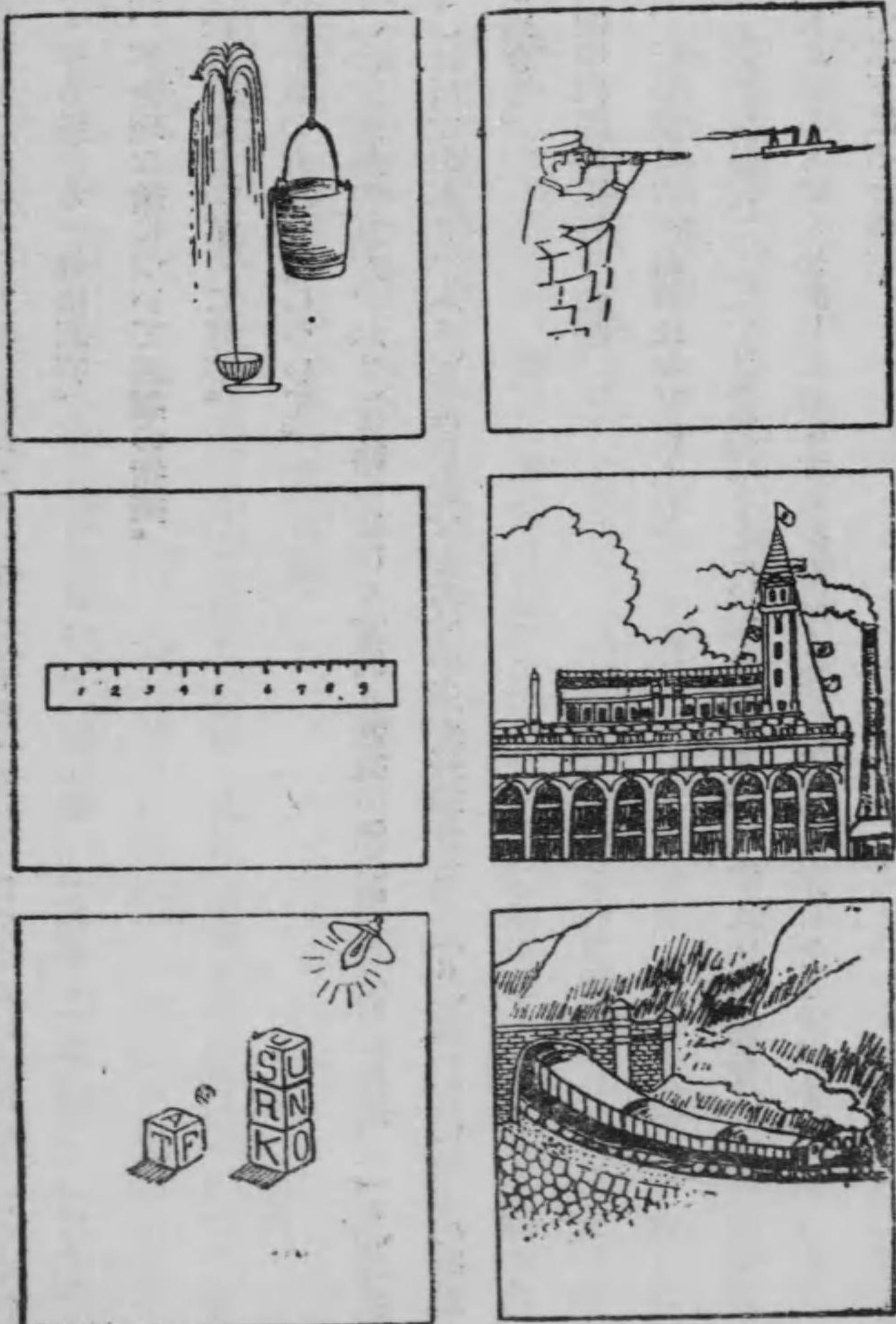
六問中四問の正答を合格。

第六、三分間に六十語以上を言はしむ。

「今あなたの思ひついた言葉を何でもよいかから出来るだけ多く言つて御覽」

眼前にあるものを出鱈目に列擧する弊を除くために目をつぶらせる方がよい。

六十以下は不合格。



補助法一、不合理なる文章の批評。

方法は十歳児の補助法に同じ。三問共正答を要す。

- (一) 自轉車のりが誤つて崖から落ちて直ぐ死にました。病院につれて行きましたがとても助かるまいといふことです。
- (二) 昨日土手の處に一人の女が死んで居ましたが、手も足も双物ですたくくに切り放されてゐました。その女は自殺をしたといふことです。
- (三) 昨日汽車に衝突がありました。しかし大した事はありませんでした。死んだ人が僅か四十八でした。

○十三歳児

第一、次の二十六音節の文章を読み聞かせて反復せしむ。

「ある・日・私・は・町・の・處・で一・匹・の・可愛い・犬・を・見・ました、花子・さん・は・新しい・きれいな・前掛・を・よごし・ました」。

方法は四歳児第三に同じ。

十五音節以上の反復が合格。

第二、反対語の指摘、左方に示す語に相反せる語を右方の五語中より摘出せしむ。

まづ例によりて題意を十分理解せしめて置くことが必要である。

例	今……明日。	直ぐ。	昔。	昨日。	遅く。
1	衰へる……散る。	榮える。	續ぐ。	亡ぶ。	生れる。
2	伸びる……破れる。	縮まる。	消える。	減る。	擴がる。
3	手薄ぶ……人。	働ぐ。	興ふ。	じやまする。	きらふ。
4	愛する……好む。	怒る。	恐れる。	憎む。	女。
5	従順……官定。	賢成。	規心。	相反。	整頓。
6	自慢……悲觀。	謙遜。	配心。	抗請。	病尪。
7	精巧……粗暴。	優美。	雜難。	非凡。	富尪。
8	奢侈……吝嗇。	素果。	乏欲。	貴物。	貯金。
9	原因……理由。	果實。	成利。	供給。	目的。
10	需要……交換。	販賣。	利益。	供給。	受領。

1より10まで順次行はず、時限二分間に五問以上の正答が合格。

第三、六個の数字の反復。

六個の数字、五・八・二・九・三・四、三・一・四・七・五・二、一・〇・三・五・二・六、

三問中二問以上の正答が合格。

第四、横濱・海・財産の三語を與へて一句又は二句の文章を作らしむ。

時限は二分間。方法十歳兒第五に同じ。

第五、時計の針の位置を口頭にてを教へてその時間を言はしむ。

「今六時二十二分とすれば、どこに短針があつてどこに長針があるか思ひ浮べられますか」の豫告に對して「えゝ出來ます」と返答すれば「それなら、今の長針の處に短針がゆき、短針の處に長針が行く時は何時ですか」と尋ねる。同様の間を八時十分及二時四十五分とについて試む。

(一)は四時三十分乃至四時三十五分。

(二)は二時四十分乃至二時四十五分。

(三)は九時十分乃至九時十五分を正答とす。

三問中二問以上の正答が合格。

第六、左の類推法を行はしむ。

例	畫	—	明るい。	夜	—	?	……	光	る。	星。	暗	い。	寂	る。	恐	る	い。	
1	木	—	著	者。	畫	—	?	……	大理石。	モザル。	雜	誌。	畫	家。	人。			
2	寺	—	佛。	?	—	神	……	鳥	居。	學	校。	社。	家。	御	光			
3	電	燈	—	獨	續。	自	働	車	—	?	……	馬	車。	電	氣。	速	さ。	
4	殊	序	—	混	亂。	?	—	戰	争	……	鐵	砲。	平	和。	火	藥。	嵐。	
5	氷	—	氷。	?	—	氷	……	川。			寒	い。	水	蒸	氣。	湯	く。	
6	月	—	地	球。	地	球	—	?	……	火	星。	太	陽。	炭	雲。	星。	世	
7	食	物	—	身	體。	?	—	機	關	車	……	火	夫。	石	炭。	列	界。	
8	村	會	—	村。	?	—	市	……	市	長。	議	員。	市	會。	縣	會。	學	
9	悲	し	か	—	不	幸。	喜	び	—	?	……	憂	愁。	幸	福。	會	民。	
10	大	統	領	—	共	和	國。	皇	帝	—	?	……	王	國。	皇	后。	國	王。

最初の例によつてその方法を十分に理解せしめ次に1より順次10まで類推させその答を左方五語中より摘出してその下に横線を引かしむ。

三分間に五問以上が合格。

補助法一、三個の物體を比較して類似點の指摘。

(一)毛絲・綿・皮 (二)バラ・馬鈴薯・櫻 (三)小刀の刃・銅貨・電線。

類似點は各問について二つ宛舉げなければならぬ。

(一)の答「着るものに用ふ」「ムクくしてゐて温い」等 (二)の答「植物です」「葉(又は根)がある」「地に生える」等 (三)の答「金屬」「堅い」「鑛山から掘る」等。

三問中二問以上の正答が合格。

○十四歳兒

第一、次の三問に答へしむ。

全部の正答が合格。

(一)五合秬と三合秬とを使つて米を四合だけにはかるにはどうすればよいか。

(二) 次のことからどんなことが言ひ得るか。

(イ) 大砲の丸は海におちると浮かない。

(ロ) 金は水よりも二十倍重い。

(ハ) 銅貨は水に落とすと沈んでしまふ。

(ニ) 真鍮は水より二倍重い。

(三) 私は家を出て町をまつすぐに百間歩いた。右の角を折れて五十間あるき、又右の角を折れて百間歩いた。

さうすると私は今家から幾間の距離の所に居るか。

第二、左の各問題に於て左方の三語に共通せる要素を有する語、二つを右方の五語の中から捜がさせる。

時限三分間。五問以上の正答が合格。

帽子。	ショール。	手袋……手。	カラー。	頭。	靴。	家。
1 青。	黄。	緑……空。	海。	赤。	黒。	花。

2 梅。	梨。	林檎……椿。	種子。	桃。	汁。	蜜柑。
3 井。	皿。	茶碗……箸。	コップ。	紙。	瓶。	衣物。
4 細い。	赤い。	善い……重い。	大さ。	色。	行く。	強い。
5 馬。	鳩。	養……牛。	馬車。	足。	山羊。	玩具。
6 走る。	飛ぶ。	歩む……背い。	眠る。	長い。	遠い。	昇る。
7 汽船。	馬。	汽車……帆。	虎。	自動車。	動く。	飛行機。
8 足袋。	旗。	帆……船。	着物。	竿。	手拭。	机。
9 親切。	虚言。	悪口……言ふ。	正直。	取る。	竊盗。	悪い。
10 親切。	正直。	同情……慈善。	利己。	怠惰。	忠實。	不正。

例は帽子もショールも、手拭も身體に著けるもの故、カラーと靴。

(一)の答は赤と黒。(二)に桃と蜜柑。(三)はコップと瓶。(四)は重いと強い。(五)は牛と山羊。(六)は昇ると眠る。(七)は自動車と飛行機。(八)は著物と手拭。(九)は正直と竊盗。(十)は慈善と忠實。

第三、次の聯絡なき句を文章に組み立てその正誤を判定せしむ。

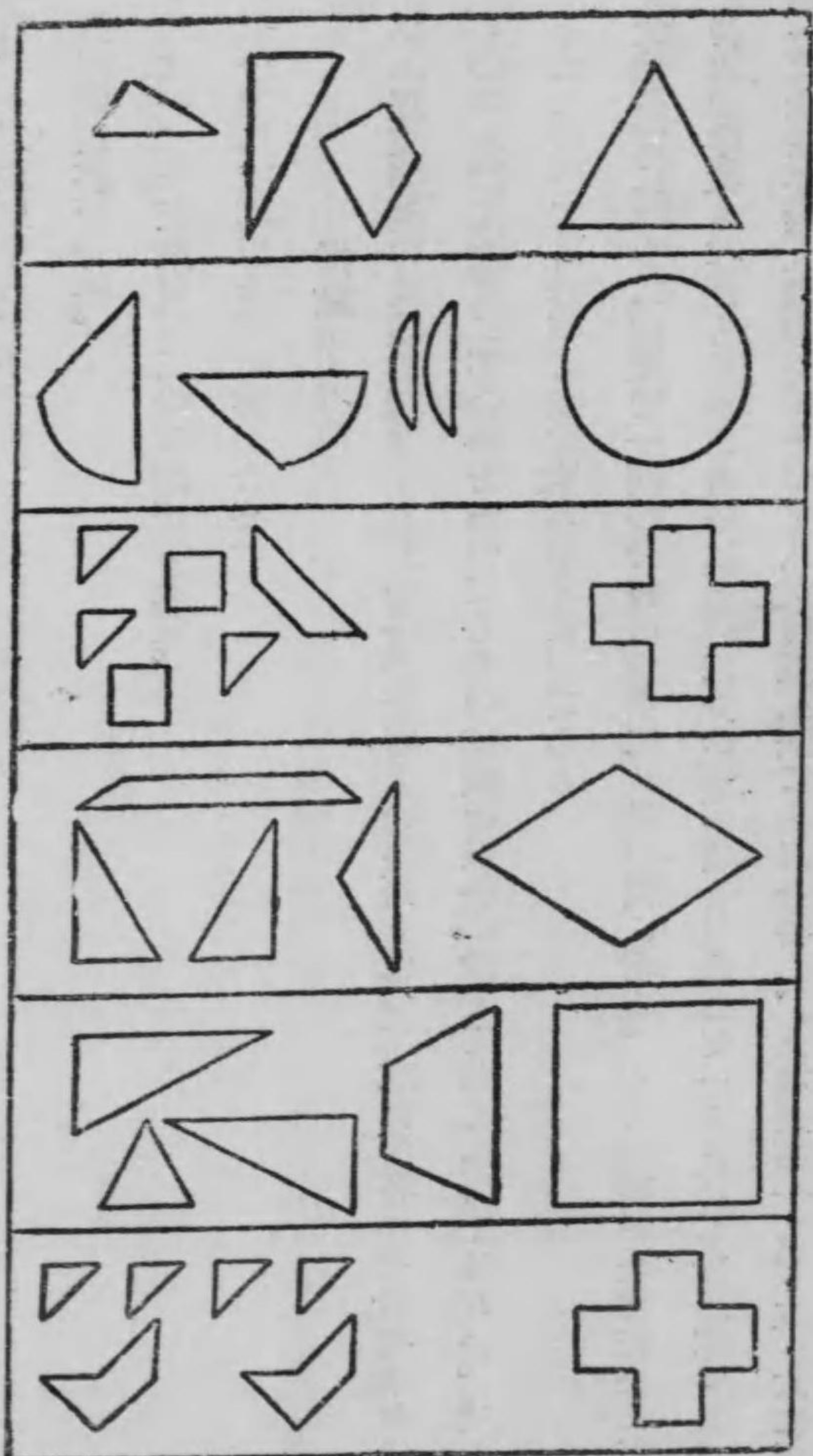
例	日は、	出ます、	持つて、	西から、	鼻な、	おます。	正誤
1	短い、	象は、	持つて、	鼻な、	鼻な、	おます。	正誤
2	林檎、	人は、	おます、	多くの、	好んで、	な。	正誤
3	米の粉、	パン、	ます、	は、	て、	造り。	正誤
4	バナナ、	中に、	の、	は、	地、	出ます。	正誤
5	鉛、	大鹽、	は、	もの、	軽い、	と、です、	正誤
6	水、	浮き、	と、	ユルカ、	に、	は、	正誤
7	です、	ぶつさう、	な、	暗い、	あるく、	通り、	正誤
8	には、	上手な、	中も、	子供、	泳ぎの、	おます、	正誤
9	冬、	なると、	木の、	散り、	葉、	すべて、	正誤
10	高い、	籐蓆、	は、	に、	なる、	に、	正誤
						登る、	
						所に、	
						空氣、	
						従つて。	

右時限三分間六問以上の正答が合格。

(一)誤 (二)正 (三)誤 (四)誤 (五)誤 (六)正 (七)正 (八)正 (九)誤 (十)正。

第四、幾何學的圖形の分割(別紙、附録参照)

方法七歳兒第五に同じ。時限五分間、四問以上が合格。



第五、十三歳兒第六の類推法。

三分間に七問以上が合格。

第六、十二歳兒第五、不合理なる繪の誤謬指摘。

全部の正答が合格。

補助法一、十三歳兒第二の反對語の發見。

二分間に七問以上の正答が合格。

採點の方法

以上査定問題の成績處理法として合格不合格といふ語を使つて來たが各々その標準を示したものであつて假りに不合格であつてもその成績を嚴格に捨ててしまふのではない。成る可くそれについても詳細に採點するやうにしてゐる。

大體各歳につき六問宛で一問の合格につき二ヶ月の價に當る。もし一問が全部完全に正答し得ぬが半採るべきものがある時はその二分の一の價と見做して一ヶ月にして計算する。

例へば生活年齢九歳の兒があつて八歳兒査定法に全部合格し、九歳兒第一・三・五・六には全部合格したが、第二の間を一つ、第四の間を四つ丈正答したとする。そして尙ほ十歳兒法では

第一、二と合格し他は全然不合格であつたとする。その時には次の如く計算する。

八歳兒法は全部合格であるから十二ヶ月。

九歳兒法第二は二個の正答に對し一個なれば一ヶ月。

又第四は四種だけ正答してゐるから七種の標準に對して一ヶ月の價とする。

そこで九歳兒法ではこの合計十ヶ月となる。

尙十歳兒法では第一、第二とも完全に合格してゐるから四ヶ月ある。之を前の九歳の十ヶ月に加へて十四ヶ月になる。以上を總計すると全部合格した精神年齢を基礎として滿八歳と十四ヶ月、即ち九歳二ヶ月となる。そこでこの兒の精神年齢は九歳二ヶ月であるとするのである。

(次表参照)

	八歳法	九歳法	十歳法
第一	+ 2	+ 2	+ 2
第二	+ 2	? 1	+ 2
第三	+ 2	+ 2	- 0
			七三

	第四	+	2		?				
	第五	+	2		2		-	0	七四
	第六	+	2		2		-	0	
計	(満8歳)	12	2	10	2	4			
								9年2月	

斯様にこの採點法は智能の價値を量的に概算して行くのであるから假りに精神年齢が同一であつたとしても必ずしもその兩者の質までが同一であるといふことは断定出来ぬことになる。

智能指數

右の例によつても分るやうに生活年齢が満九歳で精神年齢が九歳二月の場合、この兒童は大體に於て普常の兒童であると言へる。斯様に被檢者が年齢相當の精神發達をなしてゐるか否かといふことを各年齢の多少に拘らず比較的具體的に表はす方法として一般に智能指數を算出する事となつてゐる。

其の公式は次の如くである。

$$\text{智能指數}(I.Q.) = \frac{\text{精神年齢}(M.A.)}{\text{生活年齢}(A \text{ 又は } C.A.)} \times 100$$

今之を前の場合に當てはめると。

$$\frac{9\text{年}2\text{月}}{9\text{年}} \times 100 = 102$$

となる。

普通智能の發達が正常なるものに於ては右の如くに精神年齢と生活年齢とが大體一致するから指數は一〇〇に近くなり、一般に智能の前進せるものの指數は一〇〇以上、反對に後退せるものは一〇〇以下を示すことになる。隨てこの智能指數を見れば大體に於てその兒童の智能程度を推定することが出来るのである。故に普通智能方面から兒童の種別を分類する場合には最も多くこの智能指數を標準にする。

附録、智能査定の結果を記入する形式の一例

(七、八歳の部分だけ)

ヤル
(調査期日)
生活年齢
精神年齢
智能指数

年 月 日生

第 學年 (男、女)
兒童名

七歳

- 3個の壹錢銅貨と3個の貳錢銅貨
左の耳 (右の足 左の目) 8/10
- 右の手
- 未成の繪の不足の部分指摘
(1) (2) (3) (4) (5)
(6) (7) (8) (9) (10)
- 色の命名
(1) (2) (3) (4) 4/4
- 幾何學的圖形の分割
(1) (2) (3) (4) (5) 5/5
(6) (7) (8) (9) (10) 4/10
- 繪を正しき順序に排列
四組 (1) (2) (3) 三分
五組 (4) (5) (6) 3/6

(補) 午前と午後の區別

八歳

- 20……0の逆唱 二十秒以内

- 釣鐘の勘定 (4錢の鉛筆を2本買つて50錢拂つた) 三分
- 繪を正しき順序に排列
四組 (1) (2) (3) 三分
五組 (4) (5) (6) 5/6
- 今日の年月日 3/3
- 今日年月日
(1) 汽車に乗り運れた時
(2) 人がぶつてもリでなくしてぶつた時
(3) 自分のものでないものを壊した時
- 不合理の繪の誤謬の指摘
(1) (2) (3) (4) (5) 各1分
(6) 4/6
- (補) 各種の紙幣及貨幣の指名

大正十一年十二月三日印
大正十一年十二月五日發行

不許
複製

定價 金參圓八拾錢
送料 拾八錢

著述代表者

東京市小石川區林町四十四番地
藤岡真一郎

編輯者兼
發行者

東京市四谷區右京町一番地
今井彌市

同

東京市四谷區坂町百十二番地
關內彦太郎

印刷者

東京市本郷區眞砂町三十六番地
久松鐵次郎

印刷所

東京市本郷區眞砂町三十六番地
日東印刷株式會社

東京市四谷區右京町一番地

東京啓發舍編輯局

振替口座東京五九八〇五番

賣捌書肆

發行所

東京

日本橋 六合館 神田多町
至誠堂 盛堂 神田橋
文林堂 誠堂 神田橋
同 同 同
同 同 同

地方

大阪 柳原書店 北海道 富貴堂
名古屋 川瀬書店 福島 清光堂
九州 菊竹書店 秋田 石川書店
鹿兒島 吉田書店 弘前 今泉書店

372
55

終

